

1 ACT I

2 0、バイトも立派な契約

3 ○Scene 1

4

5 ||||登場人物：ロゼ、メルシー、主人公

6 ||||場所：カフェ「朝露」店内

7 ||||シーン内容：主人公がバイト探しのため「朝露」の募集に応募。そこでオート
8 マタドールの店長の「ロゼ」とキキーモラの店員「メルシー」と対面する。簡単な
9 面接をしたあと無事に合格。

10

11 (アンビエント：夕暮れ)

12 (演出：ドアを開ける、カランコロンと鳴るドアベル)

13

14 【メルシー】

15 <正面、正面向き、やや遠い、通常音量>

16 あっ、すみませんお客様、もう閉店のお時間なんです。よろしければ、明日また…

17 …

18

19 【主人公】

20 ああいえ、その、僕はここがバイトを募集していると聞いて……！

21

22 【メルシー】

23 ああ！ バイトの応募ですね？ どうぞどうぞ！

24

25 (演出：足音、ドア閉める)

26

27 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>

28 閉店作業中なので、もう少しだけお待ちいただけますか？

29 えっとお、テーブル席はもう畳んでしまったので、カウンターで寛いでいただき
30 い。

31

32 (演出：主人公が席に着く)

33

34 【メルシー】

1 <やや左、右向き、通常距離、やや大きい声>
2 店長～バイトに応募したいって方がいらっしゃいましたよ～
3
4 (演出：店の裏に向かいながら)
5
6 【主人公】
7 この人、店長じゃないんだ……。
8
9 『少しの時間経過、メルシーがロゼを抱っこしながら店の裏から登場』
10
11 (演出：店の裏から出る)
12
13
14 【メルシー】
15 <左側から正面、正面向き、通常距離、通常音量>
16 すみませんすみません、おまたせしました～
17 えっと、それでは早速ですが、面接を始めます。よろしいですか？
18
19 【主人公】
20 え？ あっ、はい、大丈夫です。
21 でも……先程店長さんと呼ばれていましたけど……
22
23 【メルシー】
24 あっ、店長ですね～。えっと、少しだけ説明しますと…… (ロゼに遮られる)
25
26 【ロゼ】
27 <正面、正面向き、通常距離、通常音量>
28 (やや冷たそうに) バイトに応募したいっていうのは、貴方ね？
29
30 【主人公】
31 はい、そうですけど。
32 って……えっ！？
33
34 (演出：椅子が転がる)
35
36 【メルシー】
37 だ、大丈夫ですか！？
38
39 (演出：椅子を戻し、座り直す)

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39

【主人公】

いたたあ……い、一応……。
えっと……今のは、腹話術ですか！？

【ロゼ】

(やや冷たそうに) 人が話をしているのに「腹話術」と決めつけるのは感心しないわね。
その辺の評判の悪い道化師と一緒にしないで頂戴。

【主人公】

や、やっぱり、人形が喋ってる！
店長って……まさか！？

【メルシー】

もう一店長、初対面の方にいきなりそんなことしたら驚いちゃいますよ。

【ロゼ】

はあ……めんどくさいわね。

『ロゼがメルシーから離れ、カウンターの上に立つ』

(演出：パタッと小さな靴音)

(演出：てくてく)

【ロゼ】

貴方、オートマタドールに会うのは初めて？

【主人公】

オートマタドール……種族の名前だけは知っています。
僕はこの国に来たばかりなので……。

【ロゼ】

なるほど、この国に来たばかりなら驚くのも無理ないわ。
こちらこそ失礼したわね。

【主人公】

いえ、大丈夫です！

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39

【ロゼ】

では仕切り直しね。まずは自己紹介から。

私はこのカフェ「朝露（あさつゆ）」の店主、ロゼ・ヴァーミリオン。
バラの「ローズ」ではなく、露と霧の「ロゼ」よ。
店名さえ覚えれば間違えることはないと思うけど、基本的には店長と呼んで。
見ての通り、人形の体をしているけど、仕事に支障はないわ。
そして、彼女が……

【メルシー】

（愛想よく）はい、お店の接客と会計を務めています、キキーモラのメルシー・モンブランです！
あっ、たまに軽食の調理のお手伝いもしているんですよ！
どうぞよろしく～

【ロゼ】

店を立ち上げて2年経つけど、ここで働いているのは私とメルシーの二人だけ。
最初の頃は客がそこまで多くなかったから、私達だけで十分だったの。
けれど今年に入ってから店の知名度が上がって、繁盛するようになってね。嬉しいことだけど、最近はどうにも人手が足りなくて。
私はそろそろ新しいメニューの開発に取り組みたいし、メルシーの負担をこれ以上大きくしたくなかったのよ。

【メルシー】

店長！ 私は大丈夫ですって……！

【ロゼ】

<左向き>

ダメよメルシー。家に帰ればきょうだいたちのご飯を作って、洗濯もしないといけないのでしょうか？

店でも十分すぎるほど働いているのに。

<正面向き>

要するに、メルシーの仕事の補助と、会計や掃除といった雑用をしてくれる人を雇いたい。それと、男だったら食料を仕入れる時にも力を貸してほしい。

ここまで質問はある？

なさそうね。次は貴方の番よ。自己紹介をお願い。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39

『主人公自己紹介』

【ロゼ】

ふむ……大学生、ね。
バイトは、学費か習い事の月謝を稼ぐためかしら？

【主人公】

もちろんそれもありますが、えっと……
この町に来たばかりなので、新しい環境に馴染みたいんです。

【ロゼ】

ふうん。お金のためだけじゃなく、「町に馴染みたい」と。
……物好きね、貴方。
この町には私達をはじめ、色々な種族が住んでいる。
他の地域より騒がしいかもしれないけど、退屈しないのは確かだわ。
バイトを機会に彼らの生活がどんなものか見てみるといいけど、もちろん店の仕事
が最優先よ。

その他の理由はあるのかしら？

【主人公】

は、恥ずかしながら、毎日この店の前を通っていて、その……
すごくいい匂いがして……

【ロゼ】

くすくす、うちの香りに釣られたのね。
閉店後、売り残っているものがあったら食べてもいいわ。昔、メルシーもよく持ち
帰っていたわね。
だけど今はほとんど残らないから、あまり期待しないで頂戴。
あとコーヒーはタダでは提供できないわ。一応、うちの一番の売りだから。
飲みたいのなら……そうね。自腹でいいなら、仕事を終えたあとに特別に一杯淹れ
てあげてもいいわ。
もちろん、メルシーも構わないけど……コーヒー不耐症を治してからね。

【メルシー】

あ、あはは～。どうやら私、コーヒーとの相性が悪いみたいで。

1 飲むとすぐにお腹の調子が悪くなってしまおうんです～

2

3 【ロゼ】

4 体質だけは仕方ないわ。

5

6 ……話が逸れたわね。貴方、自己紹介でレジ打ちの経験があるって言ってたわね。

7 それも飲食店かしら？

8

9 【主人公】

10 いいえ、実家にある小さな本屋です。

11

12 【ロゼ】

13 (顔を伏せて独り言) 本屋ね……少し違うけど、経験は経験だわ。

14 まずは、客が少ない時間から……かしら。

15

16 (顔をあげる) ……大体のことはわかった。

17 頼りなさそうな顔だけど、悪い人ではないみたいだわ。

18 メルシー、どう思う？

19

20 【メルシー】

21 いやあ、私はただの従業員ですし、決めるのはやっぱり店長が……

22

23 【ロゼ】

24 従業員だからこそ、今後一緒に働く貴女の意見を求めているのよ。

25

26 【メルシー】

27 って言っても……

28 えっとお……少し、失礼しますね？

29

30 【主人公】

31 えっ？ は、はい……。

32

33 『メルシーが歩き回って主人公を観察する』

34 (演出：足音)

35

36 【メルシー】

37 <左から右、右から左、正面向き、通常距離、小さい声>

38 ふむ……ふむふむ。

39 なるほど……。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39

<正面、正面向き、通常距離、通常音量>
ありがとうございます。

<後ろ向き>
いいと思いますよ、店長。

【ロゼ】

そう。
では、異論はないということで、速やかに進めましょう。

(演出：ロゼが書類を持ち出す)

はい、この契約書に書いてあることをすべて読んで頂戴。
給料や出勤に関する質問があれば遠慮なく言って。問題なければサインをしてもら
って、契約成立よ。

【メルシー】

<正面向き>
どうぞ、このペンを使ってください。

(演出：ペンを出す)

【主人公】

ありがとうございます、拝見します。

『主人公が契約書を読む』

(演出：ペンでサイン)

これでよろしいでしょうか？

【ロゼ】

おめでとう。これで貴方も朝露の一員よ。
早速だけど、明日の午後にシフトを入れるわ。授業と被っていないわよね？

【主人公】

ええ、大丈夫です。

【ロゼ】

1 よろしい。基本の仕事は明日メルシーが教えるから、ちょっと早めに来て頂戴。

2

3 【主人公】

4 はい、わかりました。

5

6 【ロゼ】

7 じゃあ、今日はもう帰っていいわ。ご苦労さま。

8

9 ……ん？ まだなにか？ 何か言いたそうな顔ね。

10

11 【主人公】

12 その……えっと……

13

14 【ロゼ】

15 (めんどくさそうに) はあ……言いたいことがあるならはっきり言いなさい。

16

17 【主人公】

18 えっと……店長……

19

20 【ロゼ】

21 (不機嫌そうに) なに？

22

23 【主人公】

24 (手を前に) だ、抱っこさせてくれませんか？

25

26 【ロゼ】

27 (驚く) なっ！

28 (怒る) 気安く触れるな！

29

30 (演出：髪を鞭にして主人公の顔を叩く、ピシャ！)

31

32 【主人公】

33 いたっ！

34

35 【ロゼ】 (怒る)

36 契約書に不満でもあるのかと思えば、いきなり「抱っこさせて」ですって！？

37 そんなことをレディーに言うなんて！

38 想像より遥かに下賤で卑劣だわ、人間の男は……！

39 もう顔も見たくないわ、帰って頂戴！

1
2 『ロゼは部屋へ戻る、退場』
3 (演出：ドスドスと足音、強めのドア締め)

4
5 **【メルシー】**
6 <正面、右向き、通常距離、やや大きい声>
7 え、えっとー、私も帰りますね、店長ー！

8
9 <正面向き、通常距離、小さい声>
10 さあ新人くん、一緒に帰りましょう？

11
12 **【主人公】**
13 は、はい……

14
15 (演出：ドア開け締め、鈴の音)
16

17 ○Scene 2

18
19 ||||登場人物：メルシー、主人公
20 ||||場所：カフェ「朝露」外の小道
21 ||||シーン内容：二人の帰り道、ロゼに罵られて落ち込んでいる主人公を宥めるメルシー。

22
23
24 (アンビエント：小道)
25 (演出：二人の足音)

26
27 **【主人公】**
28 や、やらかしたあ……！！！！ しかもバイトが決まった矢先にい……！！！！

29
30 **【メルシー】**
31 <やや右、正面向き、通常距離、通常音量>
32 あはは、ドンマイですよ新人くん～
33 店長はあんなことで根に持つ方じゃありません。
34 それに、新人くんには悪意はないって気づいていると思います。
35 契約は無効になっていませんし、明日になったら機嫌も戻ってますよ。

36
37 **【主人公】**

1 だったらいいですけど……

2

3 【メルシー】

4 はい、きっと大丈夫です。

5 でも、新人くんの故郷って、やっぱり人間が多いんですか？

6

7 【主人公】

8 はい……だから異種族との交流が少なくて……。

9 今回この大学に入学したのも、それが目当てなんです。

10

11 【メルシー】

12 ほえー、異種族を知るためにわざわざこの大学を選んだんですか？

13 すごいです、尊敬しちゃいます。

14

15 【主人公】

16 いやそんな大層なものじゃ……

17

18 【メルシー】

19 謙遜しないでください。

20 こんな風に見知らぬ土地に足を踏み入れるのって、とても勇気の要ることだと思いますよ。

22

23 【主人公】

24 勇気を出した結果、面接が終わって早々酷い目に遭いました……

25 衝動的になった自分が悪いんですけど……

26

27 【メルシー】

28 さっきのことは心配する必要ありませんよ！

29 新人くんが異種族に不慣れだってことは、店長もわかっています。ちょっと驚いてしまっただけなんです。

31 先輩の私が保証します！

32

33 【主人公】

34 そう言われても……罵倒されたんですよ！

35 あれ、相当怒ってるんじゃない……

36

37 【メルシー】

38 罵倒？

39 ああ、あのとき言われた言葉ですか。えっとですねー

1
2 店長の言葉遣いは少し厳しくて、態度も親しみやすいとは言えませんが、本当は
3 とても優しい方なんです。
4 怒った時はああいうことを言うてしまうものだと思って、慣れてください。口癖の
5 ようなものですよ。

6
7 【主人公】

8 ええ……これ、慣れるんですか……？

9 あと罵倒が口癖って本当に大丈夫なんですか……？

10
11 【メルシー】

12 新人くんは自力でとても遠いところから来たんですから、これくらいお茶の子さい
13 さいですって！

14 私も先輩としてきちんとフォローしますから、元気出してください！

15
16 【主人公】

17 (くす) ありがとうございます。メルシー先輩。

18
19 【メルシー】

20 えへへ、よそよそしいですよ新人くん。

21 けど「メルシー先輩」って呼び方、なんかかっこいいです。

22
23 そう言えば、髪で叩かれたところは大丈夫ですか？

24
25 【主人公】

26 まだ少し赤いですが、大丈夫です。

27 いやー、アレは本物の鞭のようでした。キレッキレで、とても髪には見えま
28 せんでしたよ。

29
30 【メルシー】

31 店長の鞭攻撃、髪の毛の割には痛いですよー

32 でも、新人くんが店長に触れたくなる気持ちは、わからなくもありません。

33 あそこまで綺麗に作られたドールは、世界中を探しても少ないんじゃないでしょ
34 うか？

35
36 【主人公】

37 店長ほど綺麗なドールは見たことがないです。だから好奇心が湧いたという
38 か……。

1 【メルシー】

2 へえー、新人くんはドールにも興味があるんですね！ すごい！

3

4 【主人公】

5 うちの妹、小さい頃人形遊びが大好きだったので、家の中にお人形がたくさんあって。僕もそのときに少しいじっていたんです。

7

8 【メルシー】

9 なるほどー、妹さんの影響で。

10 私も、弟や妹の趣味に付き合っていたら結局自分の趣味になったってことがあります。

12 ですが、新人くんってドールに縁があるんですね～

13

14 【主人公】

15 ……縁？

16

17 【メルシー】

18 オートマタドールを作るのは禁止されているってことは、ご存知でしょうか。

19 そのせいで、オートマタドールの発祥地であるこの国でも、存命しているドールの数はかなり限られています。

21

22 それに、店長は普段滅多にキッチンから出ないので、常連客でも店長を見たことのある人は少ないんです。

24 それなのに新人くんは来て早々店長と会えたんですもの。ラッキーというより、縁を感じますよ～

26

27 【主人公】

28 へえー、そうなんだ……。

29

30 【メルシー】

31 あっ、そういえばうちの常連さんにも、一人ドールマニアの方がいらっしゃるんですよ。

33 初めてご来店されたときに、「是非店長に会いたい」と仰って。

34 店長はキッチンにこもっているから、そういうのは大体断っているんですが……

35 この方の執着心がかなり強くて、結局店長が「100日連続で来て毎回コーヒーを注文したら考える」って言ったんです。

37

38 【主人公】

39 いや、いくらなんでもそんな理不尽な……。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38

【メルシー】

確かに理不尽な要求ですけど、その方は本当に100日連続でご来店して毎日コーヒーを注文されました。
雨風にも負けずに。

【主人公】

マジか……

【メルシー】

それで、流石に店長も断りにくいからとお会いになったんです。
ただ、帰られたあとに店長が「視線がいかがわしい」って呟いてて。
多分そこで人間男性に対しての印象がちょっと……ねー

【主人公】

あいつのせいかよ！

【メルシー】

ですが店長にお会いになってそのお客さんも満足されたみたいで、今では普通の常連さんになりました。
週に2回ほどいらっしゃいますね。

【主人公】

どんな人ですか……？

【メルシー】

どんな人……えっとー、古物屋さんで、とてもカリスマ性のある方です。
一見近寄りたいたいですが、話してみると親しみやすいといたしますか。共通の趣味もありますし、新人くんならすぐに打ち解けられると思いますよ。

【主人公】

そう言えば、メルシー先輩は店長を抱っこしても大丈夫なんですね。
女の子同士だからかもしれないけど……。

【メルシー】

私と店長、ですか？
んー、私が店長を抱っこしても平気なのは、同性という理由以外だと……それなりに長い付き合いだから、でしょうか。

1 いいですか新人くん。店長はですね、いくら見た目がドールでも、中身は普通の女
2 の子と変わらないんですよ？
3 それに、男性と接触したことがあまりないみたいで、少し過剰に反応してしまうと
4 いうか……新人くんと同じく、「不慣れ」なんです。だから、もっと優しくしないと。
5
6 あなたはお店の初めての男手だから、色々と大変かもしれませんが、一緒に頑張り
7 ましょう。ね？

8

9 【主人公】

10 は、はい！ 頑張ります……！

11

12 【メルシー】

13 うんうん～、その意気です！

14

15 では、私のお家はあっちの方なので、ここでお別れです。

16 また明日ね、新人くん！

17

